増補東海道膝栗毛 七編

へ13
3791
6

門 へ13
號 3791
巻 6

物くさ山人漫書

一の丸
北八
弥治郎
天保山
高燈籠
秋人の
千歌
さゝや雅波の
濁の如くえ
千歌
紀のくに
左平治
河四郎
魚屋の下中
日重年沢

かくて泳ぎ出でし北八天満宮の社に詣ずるに山麓くだる神楽八条流の
人のごとき者ふたりの男料理茶やの赤前掛垂れ下るを眺めて
唐揚ち傷の甲だらの声壮年の心を動かし脂粉の香を漂せ
くうりとうの観せ物軽業曲馬の類浮世のまち
ひとつ市ふたつの面白樂器
伽ひとつ市ふたつの面白樂器

やがて不自由自在天神

はなるを出て天神橋どおりへくるに泳ぎ船の客こぞりて模様絵
ぬけうりは長い　長まつくるる往来の若い衆情だらぬ遊客
うるさがりてのうこの通りたト　デイく　デイく
泳ぎの出てくるあるいとびやうの　コレく　ハイコリヤ

かくてくるの多くてどうもあらんのうるさくてやそのそばを通
をぶらぶらとこねまわりやうの考へ不さんせ　ホンニ
今ふぬけうへとそのうのことにうまうふまそらぶくト
ひとうまに　ハイ　ハイ　ハイ　ハイ　ハイ　ハイ
安いのうのうの　ハイ　ハイ　ハイ　ハイ　ハイ　ハイ
ハイ　ハイ

八拾八番

[illegible]

の人[illegible]

[illegible]

[illegible]

の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

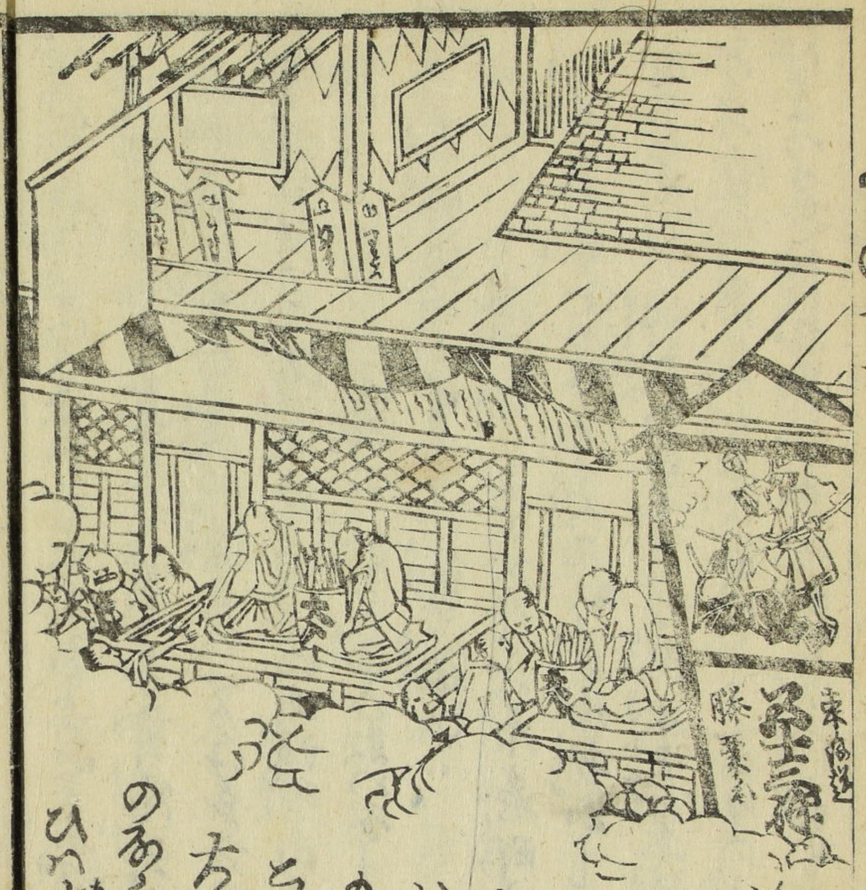
御神の利生かく度々あらはれぬるや
罰あらはれぬるぞあるる為れ
かく度々ちかひのきこえたれば北八「のう婚〜〜とてもこらられぬがうり〜ひの用ふ
あるものくるふたるのぢ
れをぞ見たる如く食傷れあるいまこうせまんろ 老年次「そりや家をひるん
いいろ法くことそれとり智ふせあやゑさんさうひるんがあ国人でも
無慈悲ぢやわいろ 注三「奇妙〜〜きんもとろ〜〜どろもく〜滅法
法よあり〜ろくあつろく幸こうく 北八「あ〜〜ろ〜ぢ時八金百文あッ
ぶ〜ぶりぢの對面 注四「ひさ〜〜ぶりもあろ〜〜いつのぢそえこまあとも
あくって〜〜〜

江戸大傳馬町
大坂心齋橋通り

そのもぎのるのるの丑〜おとこ[illegible]て九軒のあばやどこへやとあつま
りうた時ふり〜とまづ大九屋あんとこそらいのんだやあろぐる
だうこまた大まるや〜あるこまろく〜るんやまどこいあそらうるしし〜
るんと北八ひなとく着物をあくらてくいうだやアねくうを手次八〜く
あまいさんもまんがちるよあもの丸よなされまいるル〜さろうこいま
るやアかえらぬくさうあとびるまへ丸二〜そんるく〜あ〜らのるよまとうう
北八をあくへるんよきるうりだ北八〜きのくるうこまをさ本結き
くうといさる酒を三まいだかり相撲へ統門のおう〜きるゆ
のけ〜あられるびづ今ねらう〜うとからうだるを丸うル〜イヤ
それで八底着めくそんをきりのきをらコレまのゆうべへるんるど
ヨの字ろうきの字ろうあるらやホ久のあろうめを俗ぬくこうひきうん

沼ちくるどて茅蜩でもあるをうとらよ風だうら家ッぷんあい
らい横く〜と横の酒酒拳ひふ黒羽織お木刀一ちらいと
きりの刺客のりひさへ四であらうル〜へどとちうどけよ統番
とるの海とうもくよ三へ御城の指揮劇の羽織へあんまりきうく
用ちあらうくへまのあるふるへ唐様へおやだめく重郎ぎまへ
のう酒屋ふぬのであるをうふるくうらあんをまるく〜ふるあくうらあんをまるく〜
とへ酒ふひよたどべ〜ッ化紀年のむ〜の北八〜きうこるるどに長ようう
酒明をうくるよ和ぬのまくあくかえず
とうへとまうきるのもあのんどあらうるうのりの〜ゆるる
りんがるのるくるるぷうそのりるふ大きる波どうろのあ様を
きそなるんせい〜〜〜〜ト。ひるとをうく北八〜イヤとうらア酒ぬうきるアグる
ひうるの〜ひるのこうもうるのトかんぼてく〜大きるおるうどる

らかうとうとうとうとうとどんなものをきるとありやアがる老年次「ハヽヽ
コリヤ老婆ばるのごらおまんぐゝでそをしよまんぐるをしてはめん
だやの狂言をだやのとうとうとだやとうとうとうとう



いろは茶屋の
仲居衆の
とりぎりてたべ
ものを
鼠の肉の通ひ
ハイく
ものをくわ
のまれぬくわどに
ものあるものとと
ちくこの茶とも拾文
のあら茶屋ふんりあ
ひハ大変のかたもきよ

たるらうとあどるもあり日ぞ迎てあるてあるらく
ゆきてるもまだこうけまでぐんたりうぐてもまてあどるく
長所のゆどうぞつきたりける たる年始 三ツ五十五文 一ツアイく あかくアイくあるとく
かとよろうどぞうあった 三ツアイく 長いた茶さんれこうら
ときふらまの損者ーのゆろうめどうだらう 一ツ 出まり
うくく鼠不せらうくしとさんせうつのる 一ツ ちんあくくゆくく
トうくくふあくくへ
あるとあきうとう 一ツ るお風呂ふあるーるさらんかいた
あるけりーう風呂ふのてーまきあるうのる 三ツイヤ 茶ーも 唯くま
とるくうぬるんどうたたくくして者ーー湯くいちうくまのうく
者ーうう 北八 一ツ あてくるのだらうう湯もらどやアあくう 一ツ イヤ 旅
だうあらうあらうくくる 北八 一ツ あさあアかれ いくくこのもちふたうくの
あうらうよゆく

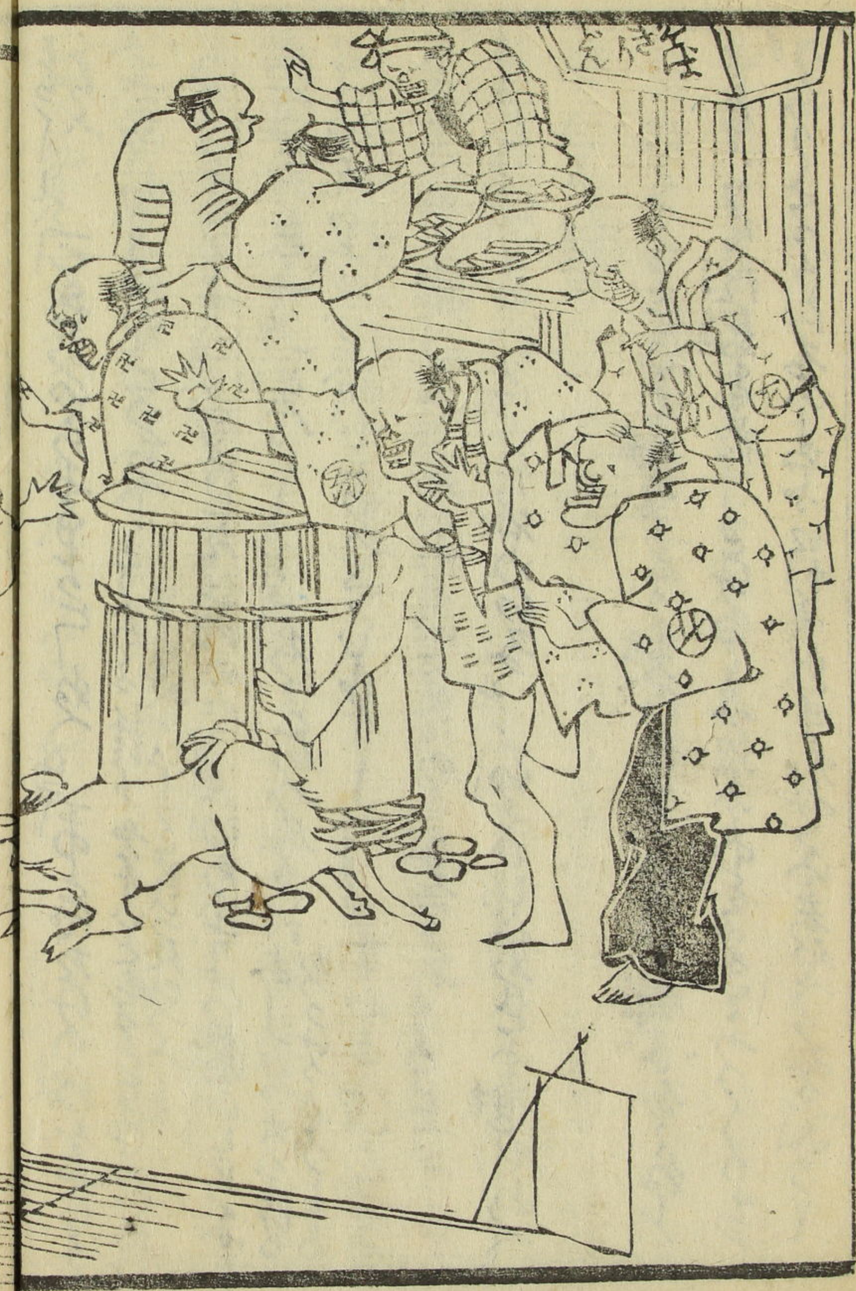
きるものを
ふるがら
どうぞ
出してもら
ひまと
ぬるもの

つぎつぎ〳〵（北八）ものもとめとめ（一文字屋）をきゝ（絵三）あらつ
このころのゆつゝ。よと〳〵だんぶとつぎつぎゆつゝ大力いつぱん
かうきゝあてしく（北八）これさあ（あ）くきのをきゝくうぢ〳〵ふ
そのひとをきゝ〳〵たとさてくつくつりうつ（図）者ぐ（形）者の極を
つゝくつ（一）ものとア考あく〳〵とんぐ（絵）（北八）（絵）（北八）
（絵）（北八）（絵）（北八）（絵）（北八）

とてもとく成ぶつよく「ヤア大きうるさいたひだらやアく」
たるもだらやアく」
うるさやく」このまろやアたろのまろきうろうやアく」
「あつこうく」ぬくいのあぐらんうのるキャアろうこうだやアく」
ぬくいく」雑のたいこの恒物よう」「ヤアまけうく」」生えのいろう
からだやアく」きーうう出坪刺のちくらちぎーさそろく」者見やア
とうぐひやア北八「あれ詠はさんアるせくアの雑八ろやぎくろくこの
とんだとろくひとろのもらうさうの級もこの数でたらうろうく」
ねんかさくこのりこれいらいらぐれきいハイそろちやぐはなくこうちろぐ
六文ぎやいらるる詠はすりとうく」コウきたいたんるくものやみと
ろくたくろるやくこのうべ苦のるをとくるくろうるるめくあんくるけり
たけへ三十二文ぎろうぐ色んやくんるト「ぎるまるとらくやくこけのくるる
くるくるく」

きちく北八「こをとあらいらるるもとこ」ぬく詠はこ「あとそたけの海をやろう
北一「者むーのいくろちくト」とるかるる詠はト「やまのとまるるとろくる詠はく」
あくくオメくくく北八「めりしたる詠はさんん詠はく」のめくまくい鶴はきりあふ
高くやいるるる「たんく」詠はこ「ろうこ」
ろうろうんの井をぐ八「アくあいくくしくくとろうるぐト」あーるる去へまる
きくくくくろう詠はこ「アくあいくくしくく」コリヤまく」とんぐくとろう
の井をを出ーてあきるやアがるぬう角のまんるくふ古平ぬ「コリヤ
井をの辺とらくくるぬるやいらるる北八「ひくきびぐるをふ論せぬく
むくいくく八

ひくろちきれとたぬぐとろ見ひいぬもとんきこ國ぐるくぬど
たをとろうも注系をれーとけ四くさくれふあくぐさくろくうち
うるくくろうるるいーやぐいかくくせ北八きるぐくるる「ア」



笑りのいでんせぎまのづうあいづうまうらぎ活人心まるう素ぬ
うの二百ものうるも八卦あうらぬひ八卦とうもやでるけんまうう八
十六網づうんーうけうこもだうう遠いのうさあるくあくうち
あひこまうくー（活人）ーあんときた八あのらげあたあ百要とうる
あとあまうるうあれぬうるのわるあぎさうまうらうう北八へ
コリヤあのーうくー（活人）ーあのーまうちが運をうたへんうまくト十変
うらうるのや活人所のあまをとうあ不うまあぐうらうあ「八ア吉まへまれ
あとまをとうさんぎまるくべーうらくんぐ
ひひあうもるいえくいまやうまるまあとがけるうの百ぬ「吉う
さ大きまとうあうがあくやもうるひ「まるるあくまうあ部八
地の卦こんるこんうるの俗ぬかけつひまるくち病痛とうんくく
まあとぬふつくるうあうるあうる吉あが考くるとうとうまま「コリヤ

奇妙くーうくあうやまた（まうくー変卦八乾の卦おるけん
けれくのかくがう本卦の坤と変爻の乾と合してまとを教うとうん
易不回乾坤ふうのあいまをぬけうの卦にあうくてあうくされ
うまうまうんるまき宣殃殃とやるるおぎれがかんをつけらるがとど
ぎうまも（ーまうくーうけうまをうんくーまうのうけうがやあへうう
まうあのうを人極くうまう同ドうこうあをを縁表のるうう「イヤ
をうでまあうるも八卦あうらぬも八部北八「のううとうあせ八十六のん
うーうまをうまうート（ーまうをうまをうまをうま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道中滑稽譚七編上子

道中滑稽譚七編中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新町
九軒
花盛の圖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あてもの
おゝ絶女へ
ざるやまの
山のたゝ
絶女風ふ
きかん
ぶまこれ
ちやちよ
ちやちや
コリヨゴリヨ
コリ〳〵

のちこそ
ゆるこそ
ゆるこそ
ゆる

ぢやの七十
七

[illegible]

「コレハ[illegible]十のゝ[illegible]

[illegible]

「[illegible]

[illegible]

「[illegible]

[illegible]

「

そのありハゆゑ
おまちをと
あるヨホ〳〵
ヨホ〳〵ト
ちらくが北八ろとて
三りやうあらハさうに
ネうらあるをゞ
おどろくなやア
十のどこの爺ん
とあいらにふ
ちやうをつけて
慰めふ
おまちゞる
ゞ物で
あるゞが
十のん
ゞだをれ
をあるを
くゝとふ
あるまをと
ふねをつけた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十の字のあるとこ[illegible]

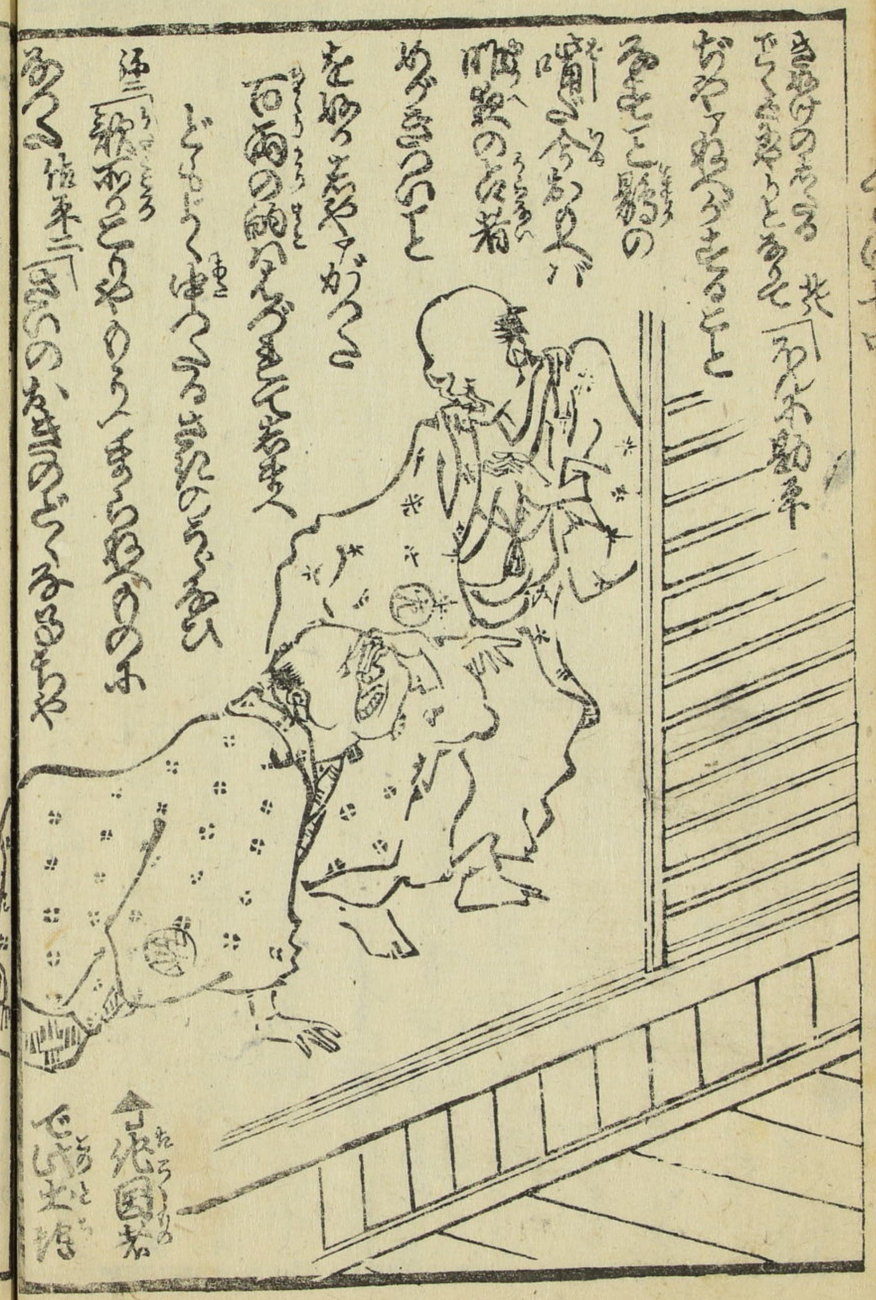
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



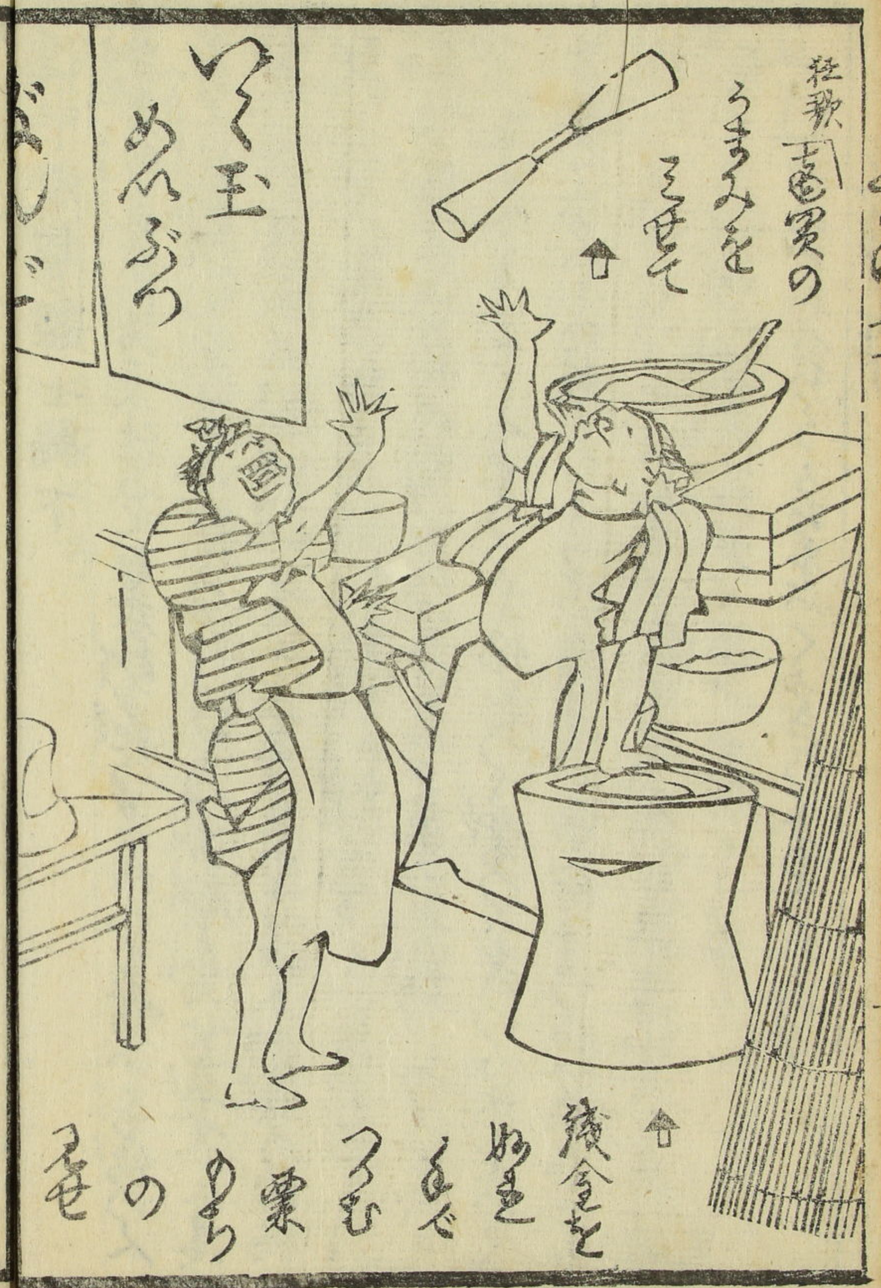
ちんかの七中
ちんかの「ア」ぶつ
ぶつ
ぶつ

新町の出歩き
河内屋瓦十郎

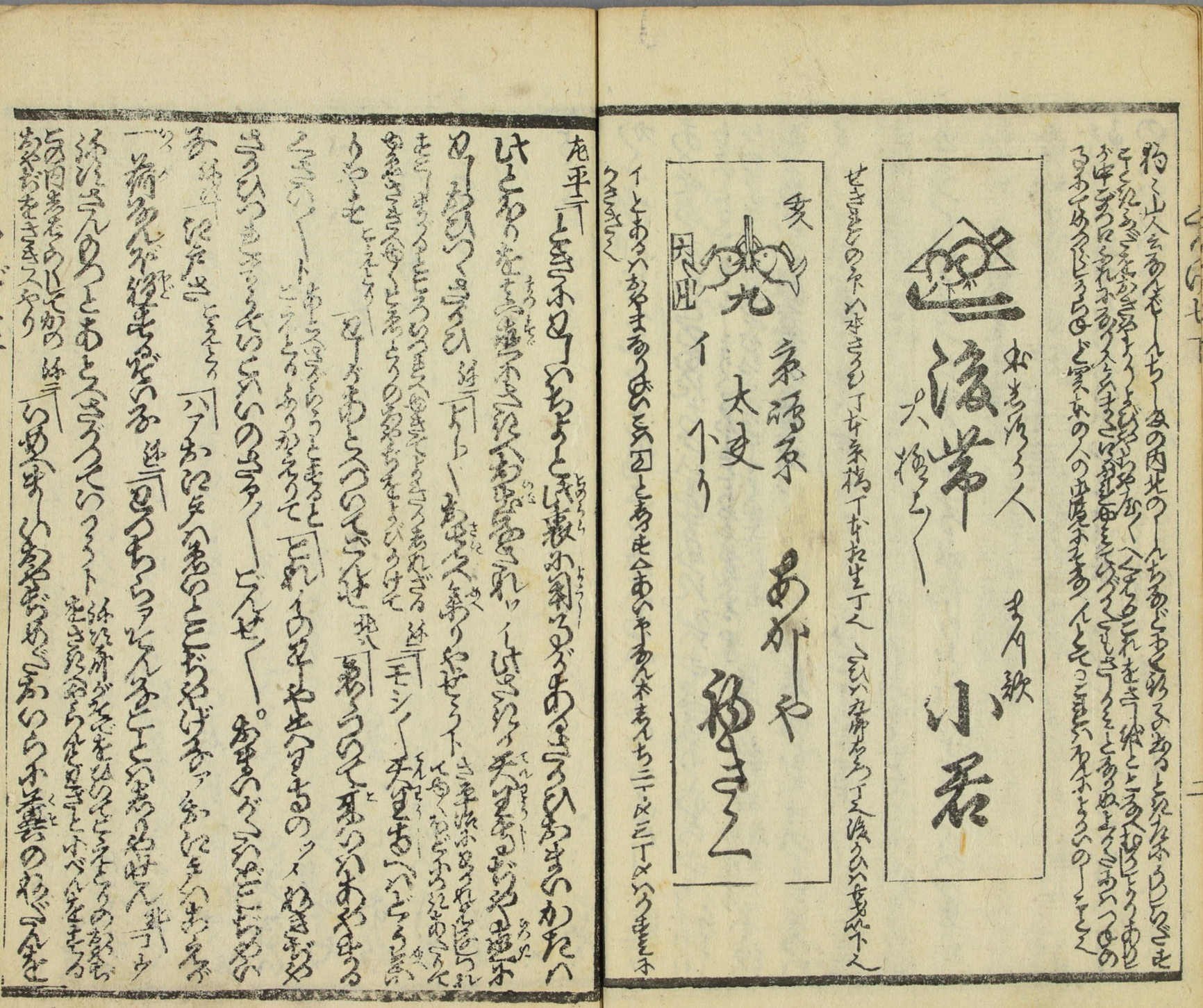
[illegible]

道中滑稽譚七編中ノ

[illegible]



かくて懐中をそこなふまでとてもまとまりの
ありてあるべきこの男たちづひとりまつ
[illegible]
[illegible]
[illegible]


小石
あかや
あきさと

きのくとてあるのをとるのの氣のきろ〳〵ト
いまのとえとうの家ぢ北へ
きちうけてあるといふ
「あくあるこうけわくあをこあまこまつておやアかる
とえ
とうの
「ちアく〳〵ぢせく〳〵おまいぐこまこで逆でちんぐ
どんせく〳〵いまうまこでおまいぐこあこでちとんべちてちやあくころか
いそぢやあるのあるのあをこうとあるのやうこうこうあいるい
のまうあまいぐこ「一日からくたびわどちとんべてだ
三ちとる日もあり
せんとえ
とうの
「ふとうでいろ
とをきてのんだとちるくしそんあるでもあるのこのとこのも
あんのるいねくシャアく〳〵と酒のあるゆうふあやまとえ
ようきうぢやあるふ惜らととてだちや
ちとあていくうぢや

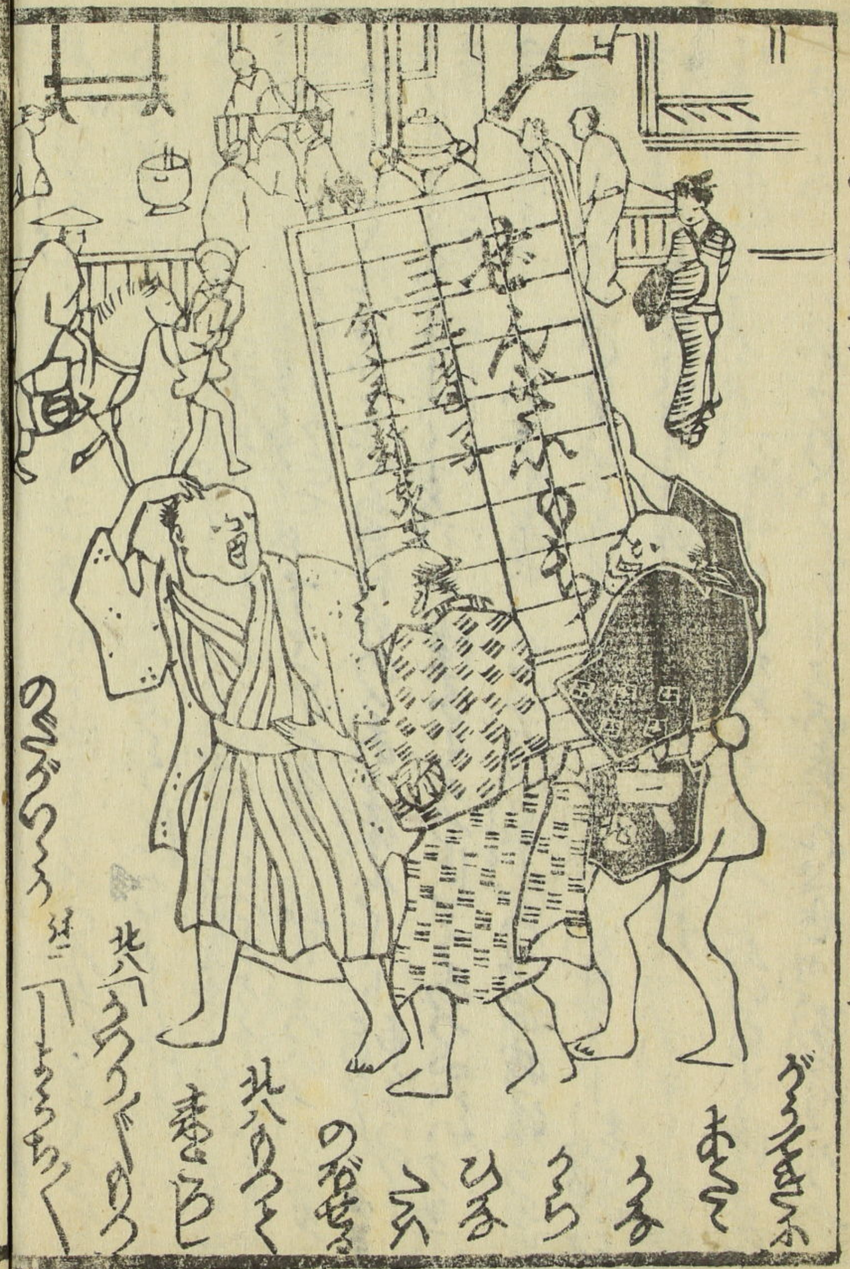
ねくの北へヨトこぢめくるのをとるト
雲稱のうちふ惜のかんぢこの
「コリヤあんぢろいあト
あるこのあるのちや大くこあ蔵のあるくあ
あくこのぢちあるぐこい孫もあるふえいとこ
いいあうとこのとかくこうせく〳〵ト
を「コ
あるこのぢりのあの
ぢいかのうとこあとつまこあ
ぢいかのうとこあとあ
ぢいかのうとこあとあ
ぢいかのうとこあとあ

を食べた。三「きたなかく」北八「ほんとうにとうちのきたるとどうつけるのぐのものをどーしておらうばかりでやらうとまあをいかるの」三「ちがうときまあをいかるの」北八「ちがうとこまあをいかるの」三「ちがうとこまあをいかるの」北八「イヤ

[illegible]

[illegible]

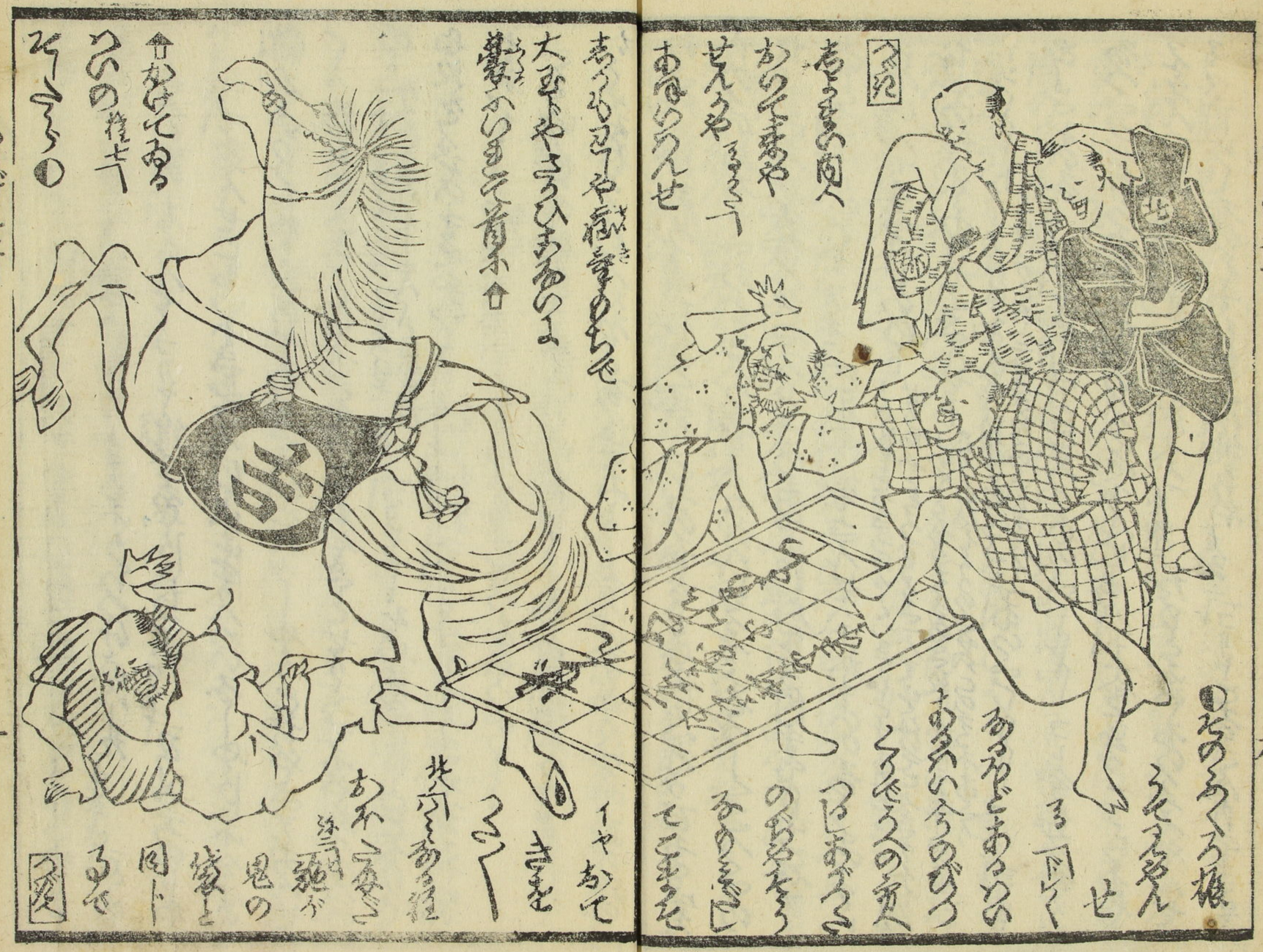
[illegible]



コリヤめうとだト　北八「ヤレ〳〵ちとをすこしまけを
の茶をせこらさうあるうまくあのりうこ「うらかるてんがちやうあらら
但方不石のえをのもあるの日ちうさうすせこのこれもそのこうこうこ
「てうさあく〳〵万茶樂だやく〳〵〳〵アリヤあんだやの日ろさの
かうだやみアノのてらきをるやつのつらうたやいがんどうのしし
指と陸奥のてらくやつかうこうこのこらいあいのんだやいかいく　北八「
機松めらこのゆあうこうやあるあるあ「あんだやいかどれ　ひづし
くさうあるあのおけさをてこまをやいれ「イこうらうアいるアのを
うあくこのやアがうこうこ虎嫁ろうこ　のこうーやうこをこうう
中本今宵新板の種七とのあるら　まのをのさうのあの茶の
ぶれのでくうし　茶ら北八を取
ろくのえうまでこのあまづうちのの陸奥だやいい北「だうアあうせ

十二あのまごどもどもろのものんろ 格七 イヤこれのホ大きホ書てあるのゞ
かゞれの眼ろやさしらんろのコレ又いせんぎんのもち二文書る人ろ
宮新けさいろちやとーつも足ゞかいこのだやかふこの元と格表
係の月まホりこゆるいたやひとろものて出ゞゴコリヤあゞまもら
ゆこゞろくくのそうせろのだろや 共 十二やろだろうーーとられまく
ゆろゞコリヤ道で格ろこのゞ 格七 長ることめろせやい清ままて
い着ろあろいあゞろはしをまと 左手二 コレくー 伯父様コリヤ
ううゞやいまはやらあまものあゞこのーやらに寄てのまて
道ろまゞろきろひこのあろゞ拾ろてまゞだやあろろふる 格 ア
ろゞころんもあやろうくさんせコリヤ母ーとこの舟板でろうめ
おゞ母あいこの北八 元まゞやら出ーて寄ろまあのらアて

ろ六い義兵衛 格七 あきろまとろろ右ーやらに これゞ百ホ母実
ものいあやろゞあゞまら寄ろくらひをろてそゞーくまろるの
ちやあろゞをいあんだやろゞとこのまやしあまゞ内まゞのてこれサア
あとろ終りやくー 左手二 三まゞ利ろ ニアセ ハテあまいのあゞまあろら
のそらんでゞんものト ーやらまをつきこけるとつきりどすくれこまと
おちやあ格まあのそゞでんせトーしのそとろやまろ人ろてひのそこくきろ 分
インくートあゞろろまもあろるひやろ ーやらにまをつ ろ 上
ゆまるのこれ二けんさんへのこままろ ゞやらのろホあろ
ゞまゞこゞやろ 十二 イヤとりゞどころろあらくーー 左手二 コリヤ
あろくゞゞをろらホあらそあのろうこゞーーーー コレ金まゞあろう
元ろんんのろ方 元まゞのまとろ 十二金まゞこゞらあや
ろくゞ下くーあのそまゞらや 絶ちや 左手二 コリヤこまさんりてきや



[illegible]

[illegible]

[illegible]

めつりやせうと云人うちうを拵て大神八幡宮のむすめ一日の宮
様の様子をうかがひたまひ神功皇后十一年卯月廿三日法華経
て座筒男命中筒男命表筒男命の三座ありのち神功皇后
をまつりたてまつりて住吉の五柱こゝを格式三十番社嶽しとて
社殿内をめぐる手洗所も
あけまぶあつくと順拝一出る見の浦のうら松茂り
のうるはしさかの三文字やはりどる不女どもゆくゝこれたちのぞ
あるとやうこゞろきくさアあつちやくあのぞあれ三人のへ海原へ
えらいあるのころちるのアアひとつあげうあされと
しかさうれ 江戸いやうの国産のあるこのあかけあるやこそこんる
ちをまる
うあくのもつてやうるのめつあるやど海のぬく海へらいりのつらん高

たゝ すゝめ
たゝネ二 ナントかまいぐる大坂者ホるうけせんろい共可ろうち
らの拵ひ号人ゝ藤でもあるとうらいけどどゝいつてもつまらねえ
りのさ四国ゝイヤかんふえろうるぐあるろいの二人の中ひとろいろうつける
ぐあるろのふるア江戸のやうるるやどごろうやまれ海原国産のいが
あるるどうろいるア江戸やれおくあるくゝト あつかーてるる
ぐまこれ今まるとの一ろうちぐやうるりんでもようぶあせひるるろくく
まくくまくく
ろどうまも江戸ゝくゝ をめくちやアるぐねく也昨人今のおうの高やか
いるるりのるれどひちるるゝ三人の言ふへゆやア遠くのねくるぐどうろ
やまろうそれぐやんとうるるろ口ろうちをナりゝゝゝ海原コリ中格式人
やんまのるのるやまろうゝゝこれのゝ一ろ拵へえらいろくゝ物を年八三十
四人拵陽国で二面のうえ下のるけどあぢや口ゝのそとの書歌と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

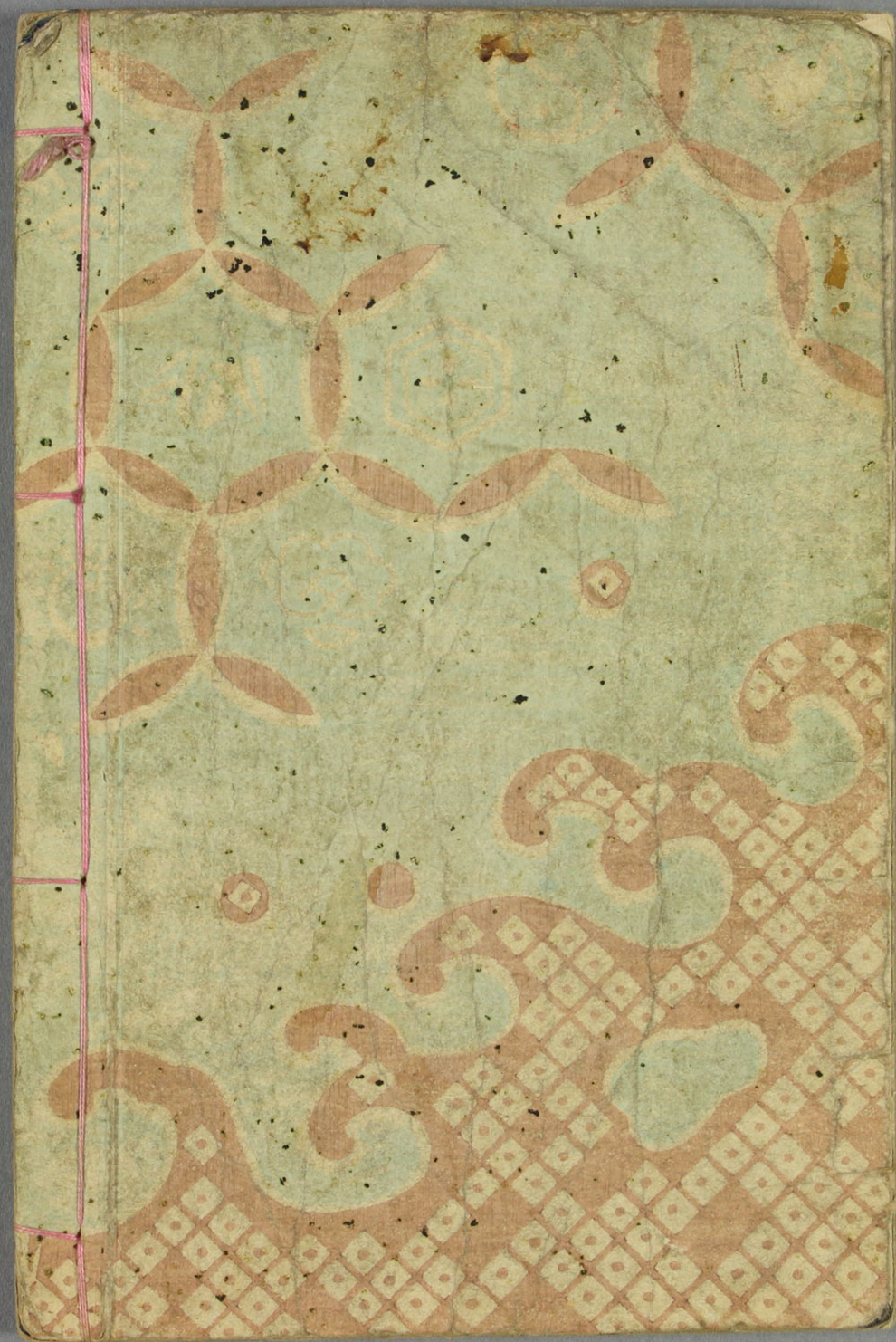
[illegible]

[illegible]

道中滑稽譚七編下 大尾

東海道膝栗毛 初編より三十人 著
上編迄出板 一魁齋芳幸 画

豊臣雲昇録 初編より山〻亭有人 綴
追〻出板 孟齋芳虎 画

赤穂義士銘〻伝 全三冊 招禄翁 著
恵齋芳幾 画

書物錦繪問屋 藤岡屋慶治郎
江戸通油町